令和７年度実施

令和６年度
教育に関する事務の管理及び執行状況
点検・評価報告書

令和７年１１月

米子市日吉津村中学校組合教育委員会

目　　次

１　点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.1

２　米子市日吉津村中学校組合教育委員会について・・・・・P.1

３　箕蚊屋中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.1

４　教育委員会の構成及び会議の開催状況・・・・・・・・・・P.2

５　教育委員会での審議状況・・・・・・・・・・・・・・・・・P.2

６　点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係
　　について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3

７　点検・評価の方法について・・・・・・・・・・・・・・・・P.3

８　点検・評価結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.5

９　学識経験者の知見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.7

１０　点検・評価票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.8

付録　米子市教育振興基本計画体系図・・・・・・・・・・・・・P.39

１　点検・評価の目的

米子市日吉津村中学校組合教育委員会では、平成２０年度から毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。（「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地方教育行政法」という。）第２６条第１項の規定に基づく点検・評価及び公表）

その目的は、自ら事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、課題や問題点を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていこうとするものです。

２　米子市日吉津村中学校組合教育委員会について

米子市日吉津村中学校組合は、組合を組織する米子市（巌地区、春日地区及び伯仙地区）と日吉津村の中学校事務を共同処理するため、組合立箕蚊屋中学校を設置し、箕蚊屋中学校に関する教育事務を管理執行するもので、組合の執行機関としての教育委員会は、地方教育行政法第２１条に規定する事務を管理執行しています。

３　箕蚊屋中学校の状況

箕蚊屋中学校の状況は次のとおりです。

(1) **生徒数及び学級数**（令和６年５月１日現在）　（単位：人、学級）

区分	１学年	２学年	３学年	特別支援	合計
男子	66	61	70	12	209
女子	92	59	70	5	226
合計	158	120	140	17	435
学級数	5	4	4	4	17

(2) **学校施設**

区　　分		施　設　規　模
校地面積		27,935 ㎡
建物延べ床面積		6,529 ㎡
内訳	本校舎	鉄筋コンクリート造３階建（3,107 ㎡）
	特別教室棟	鉄骨造２階建（1,690 ㎡）
	体育館	鉄骨造平屋建（936 ㎡）
	武道館	鉄骨造平屋建（300 ㎡）
	その他	部室、倉庫、灯油庫、プロパン庫（計 424 ㎡）
	プール施設	2,242 ㎡（建物部分は 72 ㎡）

４　教育委員会の構成及び会議の開催状況

(1) 教育委員会の構成

米子市日吉津村中学校組合教育委員会委員名簿（R6.4.1～R7.3.31）

職　　名	氏　　名	任　　期	備　考
委員	井　田　博　之	R3.10.29～R7.10.28	教育長職務代理者 日吉津村教育委員会教育長
委員	白　井　靖　二	R4.10.24～R8.10.23	米子市教育委員会委員
委員	塩　地　淳　子	R5.6.8～R6.10.3 R6.10.4～R10.10.3	米子市教育委員会委員
委員	下　口　哲　司	R5.10.27～R9.10.26	日吉津村教育委員会委員
教育長	浦　林　　実	R4.10.4～R7.10.3	米子市教育委員会教育長

(2) 会議の開催状況

教育委員会の会議は必要に応じて開催し、令和６年度は５回開催しています。

５　教育委員会での審議状況

教育委員会で令和６年度に審議したものは、次のとおりです。

※議案番号は、暦年で付しています。

○令和６年第４回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和６年５月２９日）

議案第７号　米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校学校運営協議会委員の任命について

議案第８号　米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校体育施設の開放に関する規則の一部を改正する規則の制定について

○令和６年第５回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和６年７月３１日）

議案第９号　令和７年度から令和１０年度まで使用する中学校各教科の教科用図書採択について

○令和６年第６回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和６年９月２４日）

議案第１０号　令和５年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について

○令和７年第１回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和７年３月１２日）

議案第１号　組合立学校の県費負担教職員の異動の内申について

議案第２号　令和６年度米子市日吉津村中学校組合一般会計補正予算（補正第１回）について（教育委員会の所管に属する部分）

議案第３号　令和７年度米子市日吉津村中学校組合一般会計予算について（教育委員会の所管に属する部分）

議案第４号　米子市日吉津村中学校組合教育委員会委員の辞職について

○令和７年第２回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和７年３月２６日）

議案第５号　令和７年度米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校学校運営協議会委員の任命について

６　点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係について

米子市教育委員会では、令和４年２月に米子市教育振興基本計画を策定し、計画期間を令和４年度から令和８年度までとしています。

箕蚊屋中学校は、米子市日吉津村中学校組合立の学校ですが、運用として米子市立中学校と一体的に扱われ、同一歩調の教育方針により教育が推進されています。

このため、学習指導、生徒指導等に関する教育はもとより、学校運営に関する事務についても米子市立中学校と同様に処理されています。

令和６年度に実施した事務の管理及び執行状況の点検・評価に当たり、本組合教育委員会は、関係する９つの基本施策について、その推進状況や課題等を踏まえて評価を行いました。

令和５年度事務の管理及び執行状況において点検・評価した基本施策
○基本施策１－１　豊かな心と創造性をもった子どもの育成
○基本施策１－２　安全で安心な学校施設の改善
○基本施策１－３　環境に配慮した学校教育環境整備の推進
○基本施策１－４　学校ＩＣＴ環境の整備
○基本施策１－５　通学路の安全確保
○基本施策１－６　学校図書館の充実
○基本施策２－１　確かな学力を身につけた子どもの育成
○基本施策３－４　学びあう地域づくりの支援
○基本施策４－１　健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成

７　点検・評価の方法について

(1) 点検・評価の流れ

各担当課において、基本施策に該当する「主な取組（個別事業）」について点検・評価を行い、その結果を総合して基本施策の評価を行いました。

次に、教育委員会事務局において、各担当課の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

最後に、教育委員会が教育委員会事務局の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

(2) 点検・評価の区分

①「主な取組（個別事業）」（様式２）

「主な取組（個別事業）」の点検・評価については、取組状況及び数値目標に対する実績を評価基準に基づき◎、○、△、×の４段階で評価しました。

評価区分		内　　容
◎	達成	優れた取組や状況等が見られ、数値目標が１００％以上となり、順調に目標が達成されたもの
○	概ね達成	良い取組や状況等が見られ、数値目標が８０％以上となり、概ね順調に目標が達成されたもの
△	あまり達成できなかった	課題が少なからずあり、数値目標が８０％未満となり、目標があまり達成できなかったもの または、一定の成果はあったが新たな課題が生じたもの
×	未達成	課題が多く、まだ改善に向けた取組に着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらないなど、目標がほとんど達成できなかったもの

②「基本施策評価（総合評価）」（様式１）

「基本施策評価（総合評価）」については、基本施策評価（総合評価）については、今年度から各個別事業の重要度を設定しました。設定基準は以下のとおりです。

重要度	設定基準
Ⅲ （最重要）	基本施策を推進する上で、重要性や緊急性が特に高い事業、又は、部（局）若しくは課の重点課題としている事業
Ⅱ （重要）	基本施策を推進する上で、重要性や緊急性が高い事業
Ⅰ （通常）	標準的な事業

主な取組（事務事業名）の評価及び各事業の重要度を用いて点数化し、その点数及び取組状況の総括を参考に、基本計画の計画期間（令和４年度～令和８年度）において、評価年度での基本施策の到達度の観点から、総合的にＳからＤの５段階で評価しました。

評価区分		内　　容
S	目標達成	基本施策において、取組の目標が順調に達成され、優れた成果があったもの
A	順調	基本施策において、取組の進捗状況が順調なもの
B	概ね順調	基本施策において、取組の進捗状況が概ね順調なもの
C	やや遅れている	基本施策において、取組の進捗状況がやや遅れているもの
D	遅れている	基本施策において、取組の進捗状況が遅れ、見直しが必要となるもの

８　点検・評価結果の概要

(1) 総合評価

評価した９つの基本施策のうち、順調としたもの（A）は４施策、概ね順調としたもの（B）は３施策、やや遅れているもの（C）は２施策、目標達成されたもの、遅れているもの（S，D）はありませんでした。

全体としては概ね順調に進捗したものと評価しています。

ただし、やや遅れているもの（C）と評価した基本施策や概ね順調なもの（B）と評価した基本施策において、個別に課題のある事業については、数値目標への対応を図っていく必要があります。

(2) 基本施策ごとの評価

基　本　施　策	評　価
1－1　豊かな心と創造性をもった子どもの育成	A
1－2　安全で安心な学校施設の改善	B
1－3　環境に配慮した学校教育環境整備の推進	C
1－4　学校のＩＣＴ環境の整備	A
1－5　通学路の安全確保	A
1－6　学校図書館の充実	C
2－1　確かな学力を身につけた子どもの育成	A
3－4　学びあう地域づくりの支援	B
4－1　健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	B

基本施策ごとに見ると、「安全で安心な学校施設の改善」では、『改修後の学校は本当によくなっている。子どもたちのためにも、引き続き早めに取り組んでいただきたい。』との見識がありました。

「学校のＩＣＴ環境の整備」では、『専門知識のある教員又は職員を継続的に安定して確保することは難しいと思われる。ネットワーク運用を委託するということであれば、事業者選定はしっかりとしていただきたい。』との見識がありました。

「通学路の安全確保」では、『取組については、生徒の保護者等も喜ばれると思う。道が細く、交通量の多い場所について、よく注意するよう今後も指導していただきたい。』との意見がありました。また、『大事な取組で、しっかり対応しているように思われる。学校での対応も限界があるため、連絡協議会は大切なシステムと考える。また、通学路としてだけでなく、普段その道を利用する地域住民の目であるとか、他の観点から通学路を点検するこ

とも今後より必要になると思われる。』との見識がありました。

「学校図書館の充実」では、『課題解決のため、選書の工夫等、司書教諭とのさらなる連携が必要である。また、学校教育の中で、本で調べることの重要さを指導していただけるとよい。』との意見がありました。

「確かな学力を身につけた子どもの育成」では、『学力向上については、小・中連携の推進と改善に向けて努めていただきたい。』との意見がありました。

「学びあう地域づくりの支援」では、『コミュニティ・スクールの活動について、非常に多くの方に活動していただいている。地域学校協働活動推進員の選出については、引き続き各地区のバランスに配慮していただきたい。』との意見がありました。また、『コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動について、校長や教頭と、その他の教員との間で認知度に差があるように感じている。「地域を核とした学校づくり」の観点もあることから、学校管理職の受け止め方、考え方が重要と考える。推進員の教員が孤立してないか、学校と地域とで意識の差がないか、生涯学習課と学校教育課で充分に連携して取り組んでいただきたい。』との見識がありました。

９　学識経験者の知見

点検・評価の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用することとし、令和７年７月１６日に次の方々から点検・評価に関する意見聴取を行いました。

小　谷　幸　久　氏（元社会教育委員、元米子市文化協議会会長）
高　橋　喜美子　氏（就将小・湊山中地域学校協働活動推進員）
西　垣　　滋　氏（元米子市立小学校長）

学識経験者の知見については、点検・評価票（基本施策）の下部に記載しています。

１０　点検・評価票

基本施策の点検・評価（様式１）に続けて個別事業の評価票（様式２）を掲載しております。

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－１	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
概要	昨今の子どもたちには、他者と協調する力や人を思いやる心、感動する心、自尊感情の希薄さが見受けられる。また、そうした背景の中で起こるいじめ、不登校、学級が機能しない状況など、様々な課題が見られる。 そこで、自他を尊重する態度の育成と生徒の自主的・自発的な活動を小・中学校が連携して推進するため、様々な分野の教育の充実に努める。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	心の教育の充実	◎	Ⅱ
②	人権教育の充実	○	Ⅱ
③-1	生徒指導の充実（スクールソーシャルワーカー活用事業）	○	Ⅲ
③-2	生徒指導の充実（いじめ・不登校対応）	◎	Ⅲ
④	ふるさと・キャリア教育の充実	◎	Ⅱ

取組状況の総括

【成果】

小中一貫教育では、小中学生合同のリーダー研修開催に加え、中学生による地区別生徒会とコミュニティ・スクールが連携することで、生徒が地域活動に参加する機会が増えた。人権教育では、他中学校区の研究会に学んだり、校内研究会を充実させたりすることで、教員の授業力向上を図った。不登校については、SSWrが積極的に生徒への直接支援に努めた結果、対応困難な事例が多い中、状況が好転するケースが前年度より増加した。ふるさとキャリア教育については、コミュニティ・スクールを活用するなどして、新たな地域教材の開発や生徒による地域活動の充実を図ることができた。

【課題・今後の対応】

引き続き、生徒による安心・安全な学校づくりの取組を充実させながら、さらに地域や社会にも目を向けることで地域活動への参加の充実を図りたい。人権教育では、増加傾向にある若手教員の指導力向上は急務であることから、研修内容のより一層の充実を図る必要がある。いじめ・不登校については、日頃から学校とSSWrが連携を密にしながら適切なアセスメントを行い、各関係機関との役割分担を明確にしながら支援体制をより充実させる必要がある。特に不登校については、新規を出さないよう努める一方で、教育支援センターや校内サポート教室等と連携しながら早期対応に努める。

教育委員の意見・指摘

付すべき意見なし。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。	A

学識経験者の知見

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-1	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	①	心の教育の充実		
事務事業名	米子市版小中一貫教育推進事業			
事業の概要	義務教育9年間の学びを連続したものととらえ、各中学校区で「めざす子ども像」を共有し、内容を系統化したり、指導を継続化したりすることによって、学校教育における課題を解決し、確かな学力の定着や豊かな人間性と創造力の育成を図る。			

目標

【目標】

「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の推進に向けて、学校と地域が「めざす子ども像」を共有し、校内及び地域における生徒の自主的・自発的な活動の充実を図る。

【前年度からの改善方法】

小・中学生合同のリーダー研修会については協議内容の質的向上を図る。「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の推進に向けて、学校と地域が「めざす子ども像」を共有し、地域の実態に沿った取組を行う。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	小・中学校合同のリーダー研修会で、安心・安全な学校づくりに向けた実践につながる内容について協議した回数が目標値以上となる。	回	目標	2	2		
			実績	2	2		
	（指標の説明）　小・中学校合同のリーダー研修会において、安心・安全な学校づくりに向けた実践につながる内容について協議した回数。						
2	生徒が地域で活動を行う機会を前年度と同数以上設ける。	回	目標	6	8		
			実績	8	13		
	（指標の説明）　地域学校協働活動推進員からの報告/学校と地域が「めざす子ども像」を共有した上での、生徒による地域活動の実践数。						

取組状況・成果

中学校区で小・中学生合同のリーダー研修会を定期的に開催し、安心・安全な学校づくりに向けた実践につながる内容について、2回協議を行った。

学校での地区別生徒会とコミュニティ・スクールを連携させることにより、生徒が自主的・自発的に公民館祭や地域のボランティア活動に参加するなど、生徒による地域活動の充実につながった。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	小・中学校合同のリーダー研修会で、安心・安全な学校づくりに向けた実践につながる内容について協議した回数が目標値以上となる。		100	100		
2	生徒が地域で活動を行う機会を前年度と同数以上設ける。		133	163		

課題・今後の対応

学校での地区別生徒会での話し合いをもとに、生徒が自主的に地域の活動（公民館祭や地域イベント）へ参画する取り組みがなされた。今後も、学校と地域が「めざす生徒像」を共有した上で、地域の実態に合った活動を推進することで、「学校・子ども・地域」が関わり合いながら、生徒の自治力を高める取り組みを推進する必要がある。

評価	個別事業評価
【特記事項】	◎

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-1	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	②	人権教育の充実		
事務事業名	人権教育推進事業			
事業の概要	人権教育の充実を図り、自他の生命や人権を尊重し、仲間と共に差別をなくす実践力を持った生徒を育成する。			

目標

【目標】

生徒の発達段階等に応じて、学校における人権教育に関する教材や指導方法等の改善を図る。

【前年度からの改善方法】

人権教育の中核をなす道徳科において、授業づくり研修会を開催し、自他を見つめ、気づきや考えを行動につなげる人権学習の推進を図るとともに、教職員の指導力向上に努めていく。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「道徳科（人権学習）授業づくり研修会」を年1回以上開催する。	回	目標	1	1		
			実績	1	1		
	（指標の説明）						
2	「人権学習をしてきて、自分のためになった」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	80.4		
			実績	80.4	80.1		
	（指標の説明）　独自調査						

取組状況・成果

「特別の教科　道徳（人権学習）授業づくり研修会」を実施し、導入の工夫や構造的な板書の仕方について共通理解を図った。美保中学校区人権教育研究発表会で、公開された授業に学び、行動化につなげる効果的な人権学習について校内で協議するなどして、教職員の指導力向上を図った。また、中学校区では、年間指導計画や教材をもとに、人権学習の効果的な指導方法について協議するなどして共通理解を図った。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「道徳科（人権学習）授業づくり研修会」を年1回以上開催する。		100	100		
2	「人権学習をしてきて、自分のためになった」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。		—	100		

課題・今後の対応

近年、増加傾向にある若手教職員の育成は課題の一つである。来年度は、経験年数の浅い教職員を対象とした授業づくり研修会を実施して、若手教職員の指導力向上に努めたい。

評価	個別事業評価
【特記事項】	○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-1	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	③1	生徒指導の充実		
事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業			
事業の概要	学校における生徒指導上の諸課題に対し、学校・児童生徒・保護者へ福祉的な視点で多様な支援を行うために、スクールソーシャルワーカー（以下SSWr）を配置・活用する。			

目標

【目標】

SSWrが学校と家庭、関係機関との連絡調整を行い、福祉的な視点に基づいたアセスメントやプランニングを行い、多様な支援を実施することで、生徒指導上の諸課題に係る未然防止やその改善を図る。

【前年度からの改善方法】

「巡回型」での配置とし、定期的かつ積極的に学校訪問を行い、早期の情報収集並びにアセスメントに基づいた支援と児童生徒への直接支援の充実を図る。これまでの対応の蓄積から得られた効果的な支援方法を活用しながら、効果的な支援に努める。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	支援対象生徒の内、直接支援を行ったのべ回数が目標値以上となる。	回	目標	—	30		
			実績	13	60		
	（指標の説明）　・SSWrが生徒、保護者に直接支援（家庭訪問、面談、応援会議）を行ったのべ回数						
2	支援の対象となった生徒のうち、状況が好転するケースの割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	60.0		
			実績	60.0	50.0		
	（指標の説明）　・SSWrのケース分析において、生徒、保護者の主たる課題等が好転したと判断した割合						

取組状況・成果

中学校区担当を中心に学校訪問等を計画的に行い、支援対象生徒についての情報共有及び支援について実施することができた。家庭訪問等の直接支援についても家庭児童相談室と連携をしながら、充実を図った。しかしながら、要対協ケースを含め、対応困難ケース、長期化ケースは増加傾向にある。こうした現状に対応するためにも、スーパーバイザー等からの指導、助言も参考にしながら、より効果的な支援となるよう、SSWrを中心とした支援体制のさらなる整備、充実に努めた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	支援対象生徒の内、直接支援を行ったのべ回数が目標値以上となる。		—	200		
2	支援の対象となった生徒のうち、状況が好転するケースの割合が目標値（前年度実績値）以上となる。		—	83		

課題・今後の対応

よりきめ細やかな支援を実施可能とする体制の整備に努めていく。特に不登校課題については困難化しているケースもあり、関係機関との連携含め、さらなる支援体制の強化が必要である。小学校から継続対応となっているケースも多いため、小中連携についてSSWrも役割を果たしながら、ひとりひとりの状況改善に粘り強く努める。

評価

【特記事項】

個別事業評価
○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-1	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	③2	生徒指導の充実		
事務事業名	いじめ・不登校対応（教育支援センター整備事業・多様な学び推進事業・いい学び推進事業）			
事業の概要	・小中連携、機関連携をより一層推進し、近年増加傾向にある生徒指導上の諸課題に対し、未然防止、早期支援、効果的な支援が行えるよう、各学校の教職員の意識向上や学校体制の整備を図る。 ・喫緊の課題である不登校について、「新たな不登校が生じない体制づくり」と「不登校生徒への支援」をより一層充実させる。			

目標

【目標】

各中学校区における安心・安全な学校づくりの取組を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けた学校体制を整備する。また、不登校生徒の早期支援と多様な学びの場の拡充をめざす。

【前年度からの改善方法】

・教育支援センター～ぷらっとホーム～の支援員増員と校内サポート教室の拡充により、多様な学びの場の充実を図る。
・小中学校の生徒指導担当者と連携を図り、学校体制整備と機関連携のより一層の充実を図る。
・多様な支援方法やアセスメントの視点等について学ぶために、県教育委員会と連携しながら、教職員を対象とした生徒指導関係講演会を開催する。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	不登校生徒のうち前向きな変容がみられる生徒の割合が目標値以上となる。	%	目標	72.4	70.0		
			実績	62.0	82.1		
	（指標の説明）　生徒の不登校及び問題行動等に関する調査において、不登校に計上されている生徒の内、学校が前月と比較し、前向きな変容がみられると判断した生徒の割合						
2	「生徒指導関係講演会」を年間3回以上開催する。	回	目標	—	3		
			実績	—	3		
	（指標の説明）　鳥取県教育委員会いじめ・不登校総合対策センターと連携、開催した「生徒指導関係講演会」実施回数						

取組状況・成果

・子どもたちの学びの場は、新たな選択肢含め確実に拡がっており、こういった場をきっかけとしながら教室復帰などの前向きな変容をみせる生徒が現れている。
・生徒指導部会や定例会等において、学校と各機関との連携について充実を図ることができた。要対協ケース含め、支援対象となる生徒の様態は複雑、多様化しているが、早期からの適切なアセスメント及び機関連携の充実により、継続した支援を行うことができた。
・県教育委員会と連携し、「生徒指導関係講演会」を予定どおり実施した。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	不登校生徒のうち前向きな変容がみられる生徒の割合が目標値以上となる。		86	117		
2	「生徒指導関係講演会」を年間3回以上開催する。		—	100		

課題・今後の対応

いじめ、不登校対応については、今後も困難ケースも含め、学校が主体となって対応していくことが求められる。適切な対応のために、平時からの機関連携を含めた備えが重要である。いじめについては、法に即した対応を実施するための校内組織体制の整備、充実を、また、不登校については、教育支援センターや校内サポート教室と連携した支援体制のさらなる充実に努めていく。

評価

【特記事項】

個別事業評価
◎

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-1	豊かな心と創造性をもった子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	④	ふるさと・キャリア教育の充実		
事務事業名	米子市ふるさとキャリア教育推進事業			
事業の概要	ふるさとに誇りを持ち、生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの生き方の道筋を描く「キャリア教育」とを相互に関わらせた、「ふるさとキャリア教育」として位置付け、各教科等を横断した教育活動を行う。			

目標

【目標】

様々な学習の中で、生徒が家庭・地域とのつながりを実感し、自らが暮らす地域に誇りや愛着を持ち、自信を持って自己実現に向かうことができる生徒の育成を図る。

【前年度からの改善方法】

ふるさとキャリア教育の充実を図るため、コミュニティ・スクールを活用しながら、地域の方に出会い、体験的に学びながら、自らが暮らす地域の魅力をさらに実感するため、新たな地域の人材や教材に触れる学習を検討する。また、先行実施校の取組や連携した地域人材を紹介することで各校の参考とする。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	地域見学を年1回以上開催する。	件	目標	1	2		
			実績	2	2		
	（指標の説明）　学校教育実施状況調査/キャリア教育/（2）地域の教育資源を活用した実践/地域見学の有無の報告						
2	地域の教育資源を活用した開発単元数を前年度と同数以上設ける。	件	目標	2	2		
			実績	2	2		
	（指標の説明）　学校教育実施状況調査/キャリア教育/（2）地域の教育資源を活用した実践/開発単元の有無の報告						

取組状況・成果

身近な地域資材の掘り起こしを行ったり、ふるさとキャリア教育を焦点化した年間指導計画を作成したりしながら取組を進めることができた。

コミュニティ・スクールを活用することで、生徒が地域の良さに目を向ける取組を推進することができた。例として、生徒が計画した上で行った「箕蚊屋中学校体育祭での地区別綱引き合戦」がある。生徒らは対戦前に、それぞれの地区ごとに、観戦する地域の方々へ向けて、事前の学習で調べた「自分の出身地区の良いところや自慢したい点」を披露して種目を盛り上げた。今後も、自分の暮らすふるさとに誇りや愛着を持てるような取組を推進していく必要がある。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	地域見学を年1回以上開催する。		200	100		
2	地域の教育資源を活用した開発単元数を前年度と同数以上設ける。		100	100		

課題・今後の対応

今後も将来の夢や目標を持ったり、自らが暮らす地域の魅力を実感したりする生徒が少しでも多くなるように、コミュニティ・スクールを活用しながら、新たな地域の人材や教材に触れる学習を模索していく。

評価

【特記事項】

個別事業評価
◎

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－２	安全で安心な学校施設の改善	所管課	こども施設課
概要	老朽化が進行している学校施設について、生徒の安全を確保し、適切な教育環境を維持するため、適時、必要な改修等を実施し、学校施設の維持・改善を図る。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	学校施設整備（改修）事業	○	Ⅱ
②			
③			
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

令和6年度は、トイレの洋式化・乾式化改修工事、教室の空調設備の修繕及び校庭の高木伐採等を行い、教育環境の維持・改善を図った。

【課題・今後の対応】

引き続き、生徒の安全安心を確保し、教育環境を維持するために必要な修繕等を行う。

教育委員の意見・指摘

付すべき意見なし。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 予定していたトイレ改修工事を順調に実施するとともに、突発的な修繕についても、適切に対応することができた。	B

学識経験者の知見

改修後の学校は本当によくなっている。子どもたちのためにも、引き続き早めに取り組んでいただきたい。

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-2	安全で安心な学校施設の改善	所管課	こども施設課
主な取組	①	学校施設整備（改修）事業		
事務事業名	中学校施設維持管理費			
事業の概要	生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの、及び施設を維持する上で必要なもの等の整備（改修等）を行う。			

目標

【目標】

トイレの洋式化・乾式化改修工事を行うほか、生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすものを優先して、電気設備、水道設備等の修繕等を適宜行っていく。

【前年度からの改善方法】

引き続き、生徒の安全に関わるもの、授業に影響を及ぼすものから優先的に修繕等の対応をしていく。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	目標に掲げた事業の実施率	%	目標	—	100		
			実績	—	100		
	（指標の説明）　トイレの洋式化・乾式化改修工事について、予定どおり完了することができた。						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

計画していたトイレの洋式化・乾式化改修工事を予定どおり実施し、急遽生じた教室の空調設備の修繕及び校庭の高木伐採等を行い、教育環境の維持・改善を図った。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	目標に掲げた事業の実施率		—	100		
2						

課題・今後の対応

引き続き、生徒の安全安心を確保し、教育環境を維持するために必要な修繕等を行う。

評価

【特記事項】

予定していたトイレ改修工事を順調に実施するとともに、突発的な修繕についても、適切に対応することができた。

個別事業評価
○

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－３	環境に配慮した学校教育環境整備の推進	所管課	こども施設課
概要	学校施設の維持管理に必要な改修工事等の実施にあわせ、環境に配慮した学校施設整備を推進する。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	学校施設維持管理事業	△	Ⅱ
②			
③			
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

トイレの洋式化・乾式化改修に当たっては、節水型の便器を採用し、環境負荷の低減を図った。
また、学校施設の照明LED化事業に係る事業者の選定を行った。

【課題・今後の対応】

照明LED事業について、令和7年度に交換工事を予定していることから、学校及び事業者と綿密に打合せを行い、授業への影響に配慮しつつ、事業の円滑な進捗を図る。

教育委員の意見・指摘

付すべき意見なし。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 照明LED化事業について、年度内に業者選定プロセスを完了し、事業実施に見通しをつけたが、契約及び事業着手に至らず目標を達成することができなかった。	C

学識経験者の知見

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-3	環境に配慮した学校教育環境整備の推進	所管課	こども施設課
主な取組	①	学校施設維持管理事業		
事務事業名	学校トイレ整備事業、学校施設照明LED化事業			
事業の概要	学校施設の維持管理に必要な改修工事等の実施にあたり、環境負荷の軽減につながる部材等の採用に努める。			

目標

【目標】

・トイレの洋式化・乾式化改修にあたっては、節水型の便器を採用する。
・校舎及び屋内運動場の照明のLED化に着手する。

【前年度からの改善方法】

環境負荷の軽減及び電気代の削減のため、校舎及び屋内運動場の照明のLED化事業に着手することとした。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	目標に掲げた事業の実施率	%	目標	—	100		
			実績	—	100		
	（指標の説明） LED化事業については、令和6年度は業者選定プロセスの完了をもって実施完了とする。						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

計画していた事業については、予定どおり完了した。
学校施設照明のLED化事業については、施工および維持管理に関する公募型プロポーザルで選定した事業者と業務委託契約を締結する方式を採用した。新しい手法であるため、業者選定の過程で想定より時間を要したが、整備コストの削減および整備期間の短縮を図ることができた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	目標に掲げた事業の実施率		—	100		
2						

課題・今後の対応

照明LED化事業については、学校及び事業者と綿密に打合せを行い、授業への影響に配慮しつつ、事業の円滑な進捗を図る。

評価

【特記事項】

照明LED化事業について、年度内に業者選定プロセスを完了し、事業実施に見通しをつけたが、契約を終えるまでに至らず、目標としていた事業への着手ができなかった。

個別事業評価
△

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－４	学校ICT環境の整備	所管課	こども施設課
概要	ICT機器の利用が生徒の学習への興味関心を高め、教え合い学び合う協働学習にも有効と考えられることから、段階的にインフラ、ICT機器の整備を行い、併せて学校業務支援システムの導入と活用により、教育の情報化の推進を図る。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	ICT機器整備事業	◎	Ⅱ
②			
③			
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

１年間、学校におけるICT環境を大きな支障なく運用することができた。

また、令和7年度に予定している生徒1人1台端末の更新に向けて、端末の仕様決定（鳥取県および県内市町村と共通仕様）及び必要な諸計画（「端末整備・更新計画」等）の策定を行った。

加えて、課題となっていた持続的で安定的な運用体制の確保について、令和7年3月より、専門的な知識・技能を有する民間事業者による技術的支援を受けることとし、課題の解消を図った。

【課題・今後の対応】

令和7年度に予定している1人1台端末の更新を円滑に進める。

CBTの実施等、学校現場における情報機器の活用が進むなか、通信環境の問題（インターネットの速度が遅いと感じることが時々ある。）を改善するため、問題の有無の確認や課題の特定を行う必要がある。

教育委員の意見・指摘

付すべき意見なし。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 ICT環境の運用を大過なく維持するとともに、1人1台端末の更新に向けた準備についても順調に進んでいる。また、課題であった安定的な運用体制の確保についても進展があった。	A

学識経験者の知見

専門知識のある教員又は職員を継続的に安定して確保することは難しいと思われる。

ネットワーク運用を委託するということであれば、事業者選定はしっかりとしていただきたい。

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-4	学校ICT環境の整備	所管課	こども施設課
主な取組	①	ICT機器整備事業		
事務事業名	学校ICT環境向上推進事業、学校教育用パソコン管理事業			
事業の概要	教育用パソコン等の機器の更新、タブレット端末等の整備及び無線LAN機器の増強等を進める。			

目標

【目標】

学習用タブレット端末及び校内ネットワーク環境の適切な保守管理を行うとともに、1人1台端末の更新に向けて必要な「端末整備・更新計画」等を年度末までに策定する。

また、eラーニング教材の活用を含め、学習における有効なICT活用について研修を実施し、さらなるICT活用の促進を図る。

【前年度からの改善方法】

高度に専門的な知識が必要となるネットワーク管理について、安定的な運用を行うため、米子市立学校とあわせて一部業務の外部委託の可能性について検討を行う。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	情報セキュリティに係る重大事案（ウイルス感染等）発生件数	件	目標	0	0		
			実績	0	0		
	（指標の説明）						
2	ICT活用研修開催回数	回	目標	—	3		
			実績	—	3		
	（指標の説明）						

取組状況・成果

令和7年度に予定している生徒1人1台端末の更新に向け、鳥取県および県内の全市町村で組織する鳥取県GIGAスクール推進協議会において調達する端末の仕様等を検討するとともに、「端末整備・更新計画」、「ネットワーク整備計画」等、必要な諸計画を策定した。

また、持続的で安定的なネットワーク運用の体制を確保するため、令和7年3月より、専門的な知識・技能を有する民間事業者による技術的な支援を受けることとした。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	情報セキュリティに係る重大事案（ウイルス感染等）発生件数		100	100		
2	ICT活用研修開催回数		—	100		

課題・今後の対応

CBTの実施等、学校現場における情報機器の活用が進むなか、通信環境の問題（インターネットの速度が遅いと感じることが時々ある。）を改善するため、問題の有無の確認や課題の特定を行う必要がある。

評価

【特記事項】

学校現場での授業や業務に大きな支障を来すことなく運用ができた。また、タブレット端末更新に向けた準備、持続的で安定的な業務体制の確保についても成果があった。

個別事業評価
◎

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－５	通学路の安全確保	所管課	こども支援課
概要	児童生徒が安全に安心して通学するため、米子市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関が連携して危険箇所の安全対策を推進し、通学路の安全確保を図る。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実	○	Ⅲ
②			
③			
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

学校から報告のあった全４箇所について、関係機関が連携して合同点検を行った。白線の塗り直しや横断歩道の塗り直し等ハード面の対策に加えて、学校における交通安全教育指導のソフト面からも実施可能な対策を協議し、時間帯や気候の変化も含めた対策を実施することができた。

【課題・今後の対応】

歩道の拡幅等引き続き検討に時間を要する対策をすすめていくとともに、防犯や災害発生の観点に加えて生活環境の変化によって新たな対策が必要となった場合は、関係機関と連携を図りさらなる対策を検討・実施する。

教育委員の意見・指摘

取組については、生徒の保護者等も喜ばれると思う。
道が細く、交通量の多い場所について、よく注意するよう今後も指導していただきたい。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 数値目標の達成、過年度からの継続的な取組、環境の変化等による再点検を実施したことを勘案し、この評価とした。	A

学識経験者の知見

大事な取組で、しっかり対応しているように思われる。
学校での対応も限界があるため、連絡協議会は大切なシステムと考える。また、通学路としてだけでなく、普段その道を利用する地域住民の目であるとか、他の観点から通学路を点検することも今後より必要になると思われる。

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-5	通学路の安全確保	所管課	こども支援課
主な取組	①	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実		
事務事業名	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実			
事業の概要	各学校で通学路の安全点検を行い、連絡協議会で協議するとともに、教育委員会、警察、道路管理者及び学校等の関係機関が危険箇所について合同点検を実施し、通学路の安全対策を実施する。			

目標

【目標】

連絡協議会を開催し、新規危険箇所及び過年度対策済箇所で再度対策を講じる必要がある箇所（以下「重点箇所」という。）全ての点検を行い、通学路の安全対策を実施する。

【前年度からの改善方法】

引き続き交通安全をはじめ、時間帯や季節ならびに災害発生時の観点からも通学路の総合的な安全対策を進める。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	新規危険箇所及び重点箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施箇所の割合	%	目標	—	100		
			実績	100	100		
	（指標の説明）						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

関係機関（小中学校代表、警察、道路管理者、自治連事務局、教育委員会事務局）にて開催した連絡協議会にて、過去の対策実施箇所の効果検証および令和6年度に対策が必要な箇所の協議を行った。

また、8月に4箇所（全て重点箇所）の合同点検を行い、ハード又はソフト面で実施可能な対策を協議し、環境や季節の変化等に応じた対策を実施することができた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	新規危険箇所及び重点箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施箇所の割合		—	100		
2			100	100		

課題・今後の対応

引き続き、歩道の拡幅等の検討に時間を要する対策をすすめていくとともに、防犯や災害発生の観点に加えて生活環境の変化によって新たな対策が必要となった場合は、関係機関と連携を図りさらなる対策を検討・実施する。

評価

【特記事項】

個別事業評価
○

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	１－６	学校図書館の充実	所管課	こども施設課
概要	心豊かな感性を育み、自ら学ぶ力を育む学校図書館は、生徒たちの健全育成と学習支援を行う重要な拠点であり、蔵書数の充実に加えて、本の読み聞かせや朝読書など、生徒に読書に興味を持たせ、親しめる図書館づくりに努める。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	学校図書館運営事業	△	Ⅱ
②			
③			
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

生徒の読書の量と質の向上を図るため、研修会等で他校と情報交換を行いつつ図書通信の毎月発行や授業間の短時間休憩時の開館などの取組を行ったが、生徒一人当たりの年間貸出冊数が、前年度実績を4．8ポイント下回り、指標の数値目標を達成することができなかった。

【課題・今後の対応】

スマホやタブレットなどのデジタル端末の普及によるデジタルコンテンツの拡大・多様化に伴い、子どもが読書に向かいにくい社会環境であるとはいえ、生徒一人当たりの年間貸出冊数が、2年続けて前年度実績を下回ったことから、貸出冊数の増加に向けた更なる取組が必要だと考える。

対応として、生徒による図書館の利用機会を増やし貸出冊数の増加を図るため、他校において効果のあった取組（長期休業中の貸出冊数上限の引上げなど）を参考としつつ、創意工夫した取組を作り出し、実施する。

教育委員の意見・指摘

課題解決のため、選書の工夫等、司書教諭とのさらなる連携が必要である。また、学校教育の中で、本で調べることの重要さを指導していただけるとよい。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 数値目標である「生徒一人当たりの年間貸出冊数」が前年度実績を下回っており、目標達成度が78％であったため。	C

学識経験者の知見

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	1-6	学校図書館の充実	所管課	こども施設課
主な取組	①	学校図書館運営事業		
事務事業名	学校図書館運営事業、学校運営標準経費			
事業の概要	学校司書と司書教諭とが連携し、朝読書や読み聞かせ、調べ学習など、子どもたちを本や読書に親しませる活動を推進することにより、生徒一人当たりの貸出冊数の増加に努める。			

目標

【目標】

蔵書の充実を図るとともに、学校における創意工夫した取組により生徒の読書の量と質の向上を図る。

【前年度からの改善方法】

引き続き、他校と情報交換を行いながら、子どもたちと本をつなぐため、創意工夫した様々な取組を行っていく。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	生徒一人当たりの年間貸出冊数	冊	目標	29.8	22.2		
			実績	22.2	17.4		
	（指標の説明）　【近年の実績】 R1：30．0　R2：30．6　R3：26．0　R4：29．8　R5：22．2						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

生徒の読書の量と質の向上を図るため、研修会などで他校と情報交換を行いつつ、図書通信の毎月発行や授業間の短時間休憩時の開館などの取組を行ったが、生徒一人当たりの貸出冊数については、前年度実績を下回る結果（△4．8ポイント）となった。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	生徒一人当たりの年間貸出冊数		74	78		
2						

課題・今後の対応

生徒一人当たりの年間貸出冊数が前年度実績を下回っているため、貸出冊数の増加に向けた更なる取組が必要だと考える。

対応として、生徒による図書館の利用機会と貸出冊数の増加を図るため、他校において効果のあった取組（長期休業中の貸出冊数上限の引上げなど）を参考としつつ、創意工夫した取組を作り出し、実施する。

評価

【特記事項】

個別事業評価
△

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	２－１	確かな学力を身につけた子どもの育成	所管課	学校教育課
概要	「生きる力」を育むためには、知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲などの確かな学力の育成が必要である。子どもは、習得した知識を活用する力を伸ばすことや計画的な家庭学習の定着などに課題がある。 そこで、今後は、全教育活動を通して育む学力形成、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導、小・中学校で連携した教育、家庭との連携などに取り組む。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	学力の向上を図る学びの充実	○	Ⅲ
②	特別支援教育・インクルーシブ教育の推進	◎	Ⅲ
③	外国語・英語教育の充実	○	Ⅱ
④	情報教育とICT活用による授業の充実	○	Ⅱ

取組状況の総括

【成果】

学力については、すべての調査項目で一定の伸びが見られた。特別支援教育については、特に通級指導において個々の実態に合った支援計画や教材を作成したことにより、主訴が改善する生徒の割合が前年を上回った。英語教育においては、スピーキング領域の正答率が目標値を下回ったものの、県平均は上回った。ICT機器活用においては、目標値には届かなかったが、全国平均は上回った。

【課題・今後の対応】

学力調査の項目では、結果分析を通して研修における内容を充実させることで改善を図りたい。学校支援員については、生徒に対してより適切な支援を行うには支援員のスキル向上が必須であることから、新たに研修会を開催する。英語力向上に向けては、4技能のうち課題のある項目の改善に努める必要がある。授業におけるICT活用は、前年度実績値を大きく下回った理由を明らかにしたうえで、研修内容の充実を含め改善に努めたい。

教育委員の意見・指摘

学力向上については、小・中連携の推進と改善に向けて努めていただきたい。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。	A

学識経験者の知見

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	2-1	確かな学力を身につけた子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	①	学力の向上を図る学びの充実		
事務事業名	とっとり学力・学習状況調査			
事業の概要	中学校全学年を対象とした「とっとり学力・学習状況調査」を実施するとともに、結果を分析することによって課題解消に向けての取組を行う。			

目標

【目標】

「とっとり学力・学習状況調査」の結果を分析し、課題の解決に向けて指導方法の工夫改善を図る。

【前年度からの改善方法】

「とっとり学力・学習状況調査」において、生徒の経年比較及び生徒アンケートの結果分析を行い、課題把握と学級経営、授業内容の改善を図る。前年度調査結果では、数学科での学力に課題が見られる学年があった。課題を分析し、学力保障及び授業改善に資するための教職員研修や分析資料による啓発を行う。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「とっとり学力・学習状況調査」における、対象学年の各教科（国語・数学）全6調査での学力の伸び率の平均値が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	1.51		
			実績	1.51	1.23		
	（指標の説明）　学力の伸び率：前年のレベルとの差						
2	授業力向上に関する研修会を目標値以上実施する。	回	目標	—	2		
			実績	2	2		
	（指標の説明）						

取組状況・成果

・「とっとり学力・学習状況調査」では、県と連携し、正答率、学力レベルの伸びに加え、学習方略、非認知能力を踏まえた評価、分析をすることで、授業改善に資するための教職員研修、分析資料による啓発を行った。
・「とっとり学力・学習状況調査」では、全ての調査で前年からの伸びが見られたものの、実績値は前年度を下回った。
・授業力向上研修を計画通り開催することができた。

	指標名		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「とっとり学力・学習状況調査」における、対象学年の各教科（国語・数学）全6調査での学力の伸び率の平均値が目標値（前年度実績値）以上となる。	達成度%	—	81		
2	授業力向上に関する研修会を目標値以上実施する。		—	100		

課題・今後の対応

「とっとり学力・学習状況調査」における「学力の伸び率」では、全ての調査で前年からの伸びが確認できたが、県平均と比べて伸びが小さく、前年度実績値を下回った。今後は、細やかな分析を行った上で、指導や助言につなげていきたい。また、授業力向上研修の内容を検討し、生徒の学力向上につなげていく。

評価	個別事業評価
【特記事項】	○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	2-1	確かな学力を身につけた子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	②	特別支援教育・インクルーシブ教育の推進		
事務事業名	にこにこサポート支援事業、通級指導教室整備事業、特別支援教育補助事業			
事業の概要	・学校や生徒の状況に応じて学校支援員を配置し、通常の学級に在籍する発達障がいの可能性のある生徒をはじめとする支援の必要な児童生徒に対して、支援を行う。 ・通級指導が必要な生徒に対して、適切かつ効果的な指導が可能な環境整備を行う。			

目標

【目標】

・学校や生徒の状況を把握し、適正に学校支援員を配置し、適切な支援を行う。
・通級指導が必要な生徒に対して、適切かつ効果的な指導体制を整備する。

【前年度からの改善方法】

・支援の必要な生徒の実態を把握する。その後、担任と協力しながら支援計画を作成、支援に必要な教材等の準備を行う。
・通級指導が必要な生徒に対して個別のアセスメントを行うとともに、生徒の在籍学級との、個別最適な学びを実現する。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	学校支援員を中学校に1名以上配置する。	人	目標	1	1		
			実績	1	1		
	（指標の説明）　中学校に1名以上配置する。						
2	通級指導の主訴改善による退級生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	57.1		
			実績	57.1	60		
	（指標の説明）　通級指導教室に通う生徒のうち、1年間で主訴が改善され、退級につながった児童生徒の割合。						

取組状況・成果

・中学校に学校支援員を配置し、生徒個々の実態や特性に配慮した適切な支援を行った。担任の意図を組みながら生徒への共感的理解を大切にした対応ができるとともに、生徒や保護者及び教職員との信頼関係を築くことができ、生徒が安心して学習や学校生活に取り組むことにつながった。
・通級に通う生徒一人一人の実態に合わせた個別の教育支援計画や教材を作成することができた。巡回指導により、個別の目標に沿った指導が行えるようになったことで、入級時の主訴が改善され退級につながった生徒が増えてきた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	学校支援員を中学校に1名以上配置する。		100	100		
2	通級指導の主訴改善による退級生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。		—	105		

課題・今後の対応

・今後も学校支援員の配置に努め、生徒一人一人の実態や特性に配慮した支援を行うために、学校支援員のスキル向上に必要な研修を実施していく。
・通級に通う生徒のアセスメントについて、引き続き丁寧なアセスメントを行うとともに、個別最適な学びを実践していく。

評価

【特記事項】

個別事業評価
◎

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	2-1	確かな学力を身につけた子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	③	外国語・英語教育の充実		
事務事業名	英語指導助手活用事業			
事業の概要	英語指導助手（以下ALT）を小・中学校の外国語活動・外国語（英語）科の時間に活用し、児童生徒の外国語の資質・能力を育成するとともに、諸外国の多様な生活や文化を理解し、尊重する態度を育成する。			

目標

【目標】

ALTを活用し、外国語によるコミュニケーションの機会を充実させることで、児童生徒の外国語の資質・能力を育成するとともに、諸外国の多様な生活や文化を理解・尊重する態度を育成する。教職員への研修体制を整備し、中学校における外国語（英語）科の指導体制の充実及び授業力向上を図る。

【前年度からの改善方法】

英語に触れる機会を増やすとともに、義務教育9年間を通してALTとの交流のさらなる活性化を図る。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「English Park for Students」開催回数が目標値以上となる。	回	目標	5	7		
			実績	7	8		
	（指標の説明）						
2	外部試験（4技能型英検IBA）における、「スピーキング」領域の正答率（対象学年：中学3年）が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	54.2		
			実績	54.2	51.8		
	（指標の説明）「スピーキング」：リーディングおよびQ＆Aのポイントの平均値						

取組状況・成果

・授業において、生徒が英語をより身近に感じることができるよう、ALTによる発音指導や、会話のやり取りなどを行い、生きた英語に触れる時間を増やした。
・委託業者により米子市と合わせて7名のALTを配置し、全学年で質の高い外国語の指導を行うことができた。
・「スピーキング」領域の結果については、県の平均正答率を上回る結果となった。（県平均：49．0%）

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「English Park for Students」開催回数が目標値以上となる。		140	114		
2	外部試験（4技能型英検IBA）における、「スピーキング」領域の正答率（対象学年：中学3年）が目標値（前年度実績値）以上となる。		—	96		

課題・今後の対応

・これまで小学校を対象に行ってきた「English Park for Students」を、モデル実施の様子を踏まえながら、中学校への対象拡大を検討する。また、中学校での「English Park for Students」の実施をきっかけに、小中連携の充実を図っていきたい。
・「English Park for Students」等の交流活動を通じて、英語を学ぶ楽しさを感じさせるとともに、「話す」「聞く」などの技能の向上を推進する必要がある。

評価

【特記事項】

個別事業評価
○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	2-1	確かな学力を身につけた子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	④	情報教育とICT活用による授業の充実		
事務事業名	情報教育普及事業			
事業の概要	情報教育の充実を図ることにより、発達段階に応じた情報活用能力を身に付け、情報手段を適切かつ主体的に活用できる生徒を育成する。また、GIGAスクール構想を踏まえ、教職員の指導体制の充実を図るとともに、生徒が主体的にICTを活用することができる力を育む。			

目標

【目標】

・情報教育を系統的・計画的に推進するための体制を整える。
・教職員の情報機器活用能力の向上及び充実を図る。

【前年度からの改善方法】

・ICT活用を含めた情報教育推進の状況を定期的に把握し、必要に応じて指導助言を行う。
・eラーニング教材の活用を含め、学習におけるより有効なICT活用について研修を行ったり、各種学力調査生徒質問紙のICT活用に関する内容について分析したりすることで、学校及び生徒の実態について把握し、取組に生かす。
・eラーニング教材の使用状況や、活用方法についての情報交換会を開催する。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	下記質問に対し「週3回以上」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	93.1		
			実績	93.1	64.5		
	（指標の説明）　令和6年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「中学1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」						
2	「ICT活用研修会（情報交換会を含む）」を年3回以上開催する。	回	目標	—	3		
			実績	—	3		
	（指標の説明）						

取組状況・成果

・令和6年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査「中学1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対し、「週3回以上」と回答した生徒の割合
　64．5%（全国平均：64．4%）
・授業でのデジタル教材の効果的な活用についての校内研修が行われるなど、端末利用の質の向上に向けた取組が行われた。
・ICT活用、eラーニング教材活用に関する情報交換会を計画どおり実施することができた。また、ICTを活用した授業づくりに関する研修会も開催することができた。

	指標名		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	下記質問に対し「週3回以上」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	達成度%	—	69		
2	「ICT活用研修会（情報交換会を含む）」を年3回以上開催する。		—	100		

課題・今後の対応

・ICT機器の使用について「週3回以上」と回答した割合について、全国平均とほぼ同値であったが、前年度の実績からは大きくポイントを下げた。引き続き、質の向上を目指しながら、安定した使用量も確保できるように働きかける。
・授業における効果的なICT活用について、情報交換会を機能的に運用していき、研修会の内容の充実を図り、実施方法や研修対象等を検討していく。

評価	個別事業評価
【特記事項】	○

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	３－４	学びあう地域づくりの支援	所管課	生涯学習課
概要	子どもたちを取り巻く環境の著しい変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校の努力だけで解決するには限界がある。コミュニティ・スクールを通じて、目指す子ども像の実現に向けて地域の様々な団体や住民がゆるやかにつながり、地域学校協働活動に取り組む。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	地域とともにある学校づくり	◎	Ⅱ
②	地域学校協働活動の推進	△	Ⅱ
③	地域学校協働活動推進員の配置	◎	Ⅱ
④			
⑤			

取組状況の総括

【成果】

①については、年間4回の学校運営協議会を開催し、コミュニティ・スクールの周知と啓発のため、幅広い住民・関係者を対象に計4回の研修会を開催することができた。
②については、地域住民等ボランティアの協力を得て環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を実施し、活動に参画したボランティアは延べ100人であった。
③については、地域学校協働活動推進員の活動を支援するための研修会を計5回、推進員同士の情報交換会を計7回実施し、推進員のスキルアップに努めた。

【課題・今後の対応】

①については、学校運営協議会での熟議が円滑に行えるよう、統括コーディネーターによる支援を行うとともに、住民・関係者へのコミュニティ・スクールに関する理解を促進するための研修会を企画し、周知に努める。
②については、箕蚊屋中学校での活動を定期的に市ホームページ等で広く周知することで取組みの浸透を図り、また研修会等で好事例を共有するなど活動への支援を行う。
③については、関係課と引き続き十分な情報共有を行いながら、研修や情報交換会の開催に努め、推進員のスキルアップと地域学校協働活動の活性化への支援を行う。

教育委員の意見・指摘

コミュニティ・スクールの活動について、非常に多くの方に活動していただいている。
地域学校協働活動推進員の選出については、引き続き各地区のバランスに配慮していただきたい。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 コミュニティ・スクールに関する周知や支援については引き続き行う必要があるが、今年度の目標を達成することができた。	B

学識経験者の知見

コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動について、校長や教頭と、その他の教員との間で認知度に差があるように感じている。
「地域を核とした学校づくり」の観点もあることから、学校管理職の受け止め方、考え方が重要と考える。推進員の教員が孤立してないか、学校と地域とで意識の差がないか、生涯学習課と学校教育課で充分に連携して取り組んでいただきたい。

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	3-4	学びあう地域づくりの支援	所管課	生涯学習課
主な取組	①	地域とともにある学校づくり		
事務事業名	コミュニティ・スクール推進事業			
事業の概要	地域住民等が学校運営に参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図る。			

目標

【目標】

学校と地域の連携、協働により地域住民等が学校運営に参画し、地域全体で子どもたちの成長を支える。

【前年度からの改善方法】

学校運営協議会の運営、協議がスムーズに進むため、統括コーディネーターを中心に学校運営協議会に出席し、協議内容や課題等の把握・助言等を行うなどの支援を行う。

また、地域住民や学校関係者に対するコミュニティ・スクールの周知と理解促進を図るため、研修会の開催等の支援に取り組む。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	学校運営協議会の開催回数	回	目標	—	4		
			実績	—	4		
	（指標の説明）						
2	地域住民や学校関係者向け研修会の開催回数	回	目標	—	1		
			実績	—	4		
	（指標の説明）						

取組状況・成果

令和6年度は4回の学校運営協議会を開催し、目指す子ども像についての熟議や生徒との熟議など、活発な話し合いがなされ、地域学校協働活動での取組みへの意見や感想などが多く出された。協議会には生涯学習課、学校教育課の職員も参加し、学校の現状や取り組みを共有するとともに、統括コーディネーターによる助言等を行った。

コミュニティ・スクールの取組みの活性化を目的に、4回（新任協議会委員、市民、学校関係者、学校運営協議会委員を対象）の研修会を開催した。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	学校運営協議会開催回数		—	100		
2	地域住民や学校関係者向け研修会の開催回数		—	400		

課題・今後の対応

学校運営協議会での熟議が円滑に行えるよう、統括コーディネーターによる支援を行う。

また、引き続き学校関係者や地域住民への周知や理解を広げていくとともに、活動等の推進、活性化に向けた研修会の開催等の支援に努める。

評価

【特記事項】

個別事業評価
◎

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	3-4	学びあう地域づくりの支援	所管課	生涯学習課
主な取組	②	地域学校協働活動の推進		
事務事業名	学校支援ボランティア、コミュニティ・スクール推進事業			
事業の概要	地域学校協働活動の推進のための取組みとして学校支援ボランティアによる活動を充実させ、豊かな人間性と創造力を持ち、地域に愛着や誇りを持つ生徒の育成を図る。			

目標

【目標】

学校の実情に応じて、地域住民のボランティアの協力を得て、生徒の学校生活の充実を図る。（生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなど）

【前年度からの改善方法】

学校支援ボランティアとして協力いただく地域住民を増やし、地域学校協働活動の内容をより一層充実させるため、コミュニティ・スクールについて周知し、多様な地域人材の掘り起こしを図る。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数）	人	目標	—	160		
			実績	160	100		
	（指標の説明）　令和5年度の実績を上回ることを目標とする。（学校支援ボランティア事業自体はコミュニティ・スクールとなる以前から箕蚊屋中学校において実施しているもの）						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

学校の実情に応じ、地域住民等ボランティアの協力を得て環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を実施した。ボランティアの募集は、地域学校協働活動推進員が中心となり、学校が有するボランティアのネットワークや学校だよりなどを活用して地域住民に呼びかけた。

生徒が地域学校協働活動を通して地域住民とふれあい、地域とのつながりを実感することで、地区のイベントにボランティアとして参加するなど、より主体的に地域に関わろうとする姿勢が見られた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数）		—	63		
2						

課題・今後の対応

学校での活動を定期的に市ホームページ等で広く周知することで住民へのコミュニティ・スクールの取組みの浸透を図る。また、地域学校協働活動推進員の情報交換会を定期的に開催し、活動の充実やボランティアの掘り起しに関する好事例の共有を図り、教員向け研修会や学校関係者向け説明会を開催するなど地域学校協働活動の活性化を支援する。

評価	個別事業評価
【特記事項】	△

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	3-4	学びあう地域づくりの支援	所管課	生涯学習課
主な取組	③	地域学校協働活動推進員の配置		
事務事業名	地域学校協働活動推進員配置事業			
事業の概要	学校と地域をつなぎ、地域学校協働活動をコーディネートするため、地域学校協働活動推進員を配置する。			

目標

【目標】

地域学校協働活動推進員を配置し、地域学校協働活動を推進するため、啓発・周知を図る。

【前年度からの改善方法】

地域学校協働活動の活性化や役割に関する研修や、推進員同士の情報交換会を実施し、コーディネート力向上を図る。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	推進員向け研修会の開催回数	回	目標	—	3		
			実績	—	5		
	（指標の説明）						
2	情報交換会の開催回数	回	目標	—	6		
			実績	—	7		
	（指標の説明）						

取組状況・成果

学校と地域のつなぎ役として、週10時間以内で勤務する会計年度任用短時間勤務職員の任用を行い、地域学校協働活動推進員として配置をした。

地域と学校のつなぎ役である推進員の活動を支援するため、県主催の研修会を含む年間5回の研修会への参加の機会を設け、推進員のスキルアップを図るとともに、推進員同士の意見交換や困りごとへの支援のため、令和6年度は7回にわたり情報交換会を実施した。また、推進員の困りごとに対しより効果的に支援するため、統括コーディネーターによる個別面談を実施し、助言等を行った。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	推進員向け研修会の開催回数		—	167		
2	情報交換会の開催回数		—	117		

課題・今後の対応

学校教育課と連携し、計画的に取り組むことができた。引き続き十分な情報共有を行いながら、研修や情報交換会の開催に努め、推進員のスキルアップと地域学校協働活動の活性化への支援を行う。

評価	個別事業評価
【特記事項】	◎

様式1

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（基本施策）

基本施策	４－１	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	所管課	学校教育課
概要	子どもを取り巻く生活環境の急激な変化等の要因により、体力・運動能力の低下、二極化傾向、外的要因による健康被害等、体力向上や健康の保持増進に係る問題が喫緊の課題となっている。また、多様化する現代的課題に対して、子どもの安全・安心に対する懸念が広がっている。さらに、命の重みに対する感受性が弱まっていることが指摘されている。 こうしたことから、小・中学校が連携して、子どもの体力・運動能力の向上、健康で安全な生活、自他の命を大切にする態度や実践力の育成に努める。			

主な取組（事務事業名）		個別事業評価	重要度
①	体力・運動能力の向上を図る取組の充実	△	Ⅲ
②	健康教育の充実	○	Ⅱ
③	いのちの教育の充実	○	Ⅲ
④	防災・安全教育の充実	○	Ⅱ
⑤			

取組状況の総括

【成果】

部活動の地域展開に向けて、令和6年2月に立ち上げた人材バンクにより目標とした外部人材を確保できた。健康教育については、栄養教諭や栄養職員による食育の成果として、朝食を毎日食べている生徒の割合が前年度とほぼ同値であり、全国平均を上回る結果となった。いのちの教育については、外部講師による指導により生徒は自他の命の尊さを学んだり、人権教育等を通じて相手を思いやる心情を育んだりすることができた。防災・安全教育では、専門機関と連携して安全・防犯に関する教室を予定どおり開催できた。

【課題・今後の対応】

生徒の体力・運動能力については、課題に基づく計画的な取組とすることで改善に努めたい。健康教育の面では、生徒の基本的生活習慣の定着は家庭環境にも大きく起因することから、学校における指導充実に加え、家庭への啓発にも注力する必要がある。いのちの教育については、日々の仲間づくりや人権学習等を通じて、自他を大切にする子どもの育成に向けての取組をより一層充実させる必要がある。防災・安全教育については、災害発生時に生徒が危険回避できる実践力を身に付けるためにも、避難訓練の質的充実に努める必要がある。

教育委員の意見・指摘

付すべき意見なし。

評価	基本施策評価（総合評価）
【評価理由】 各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。	B

学識経験者の知見

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	4-1	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	①	体力・運動能力の向上を図る取組の充実		
事務事業名	体力・運動能力向上事業			
事業の概要	発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするため、指導方法の工夫改善を図り、生徒の体力・運動能力の向上に努める。また、運動の楽しさや喜びを実感させることにより、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けた意欲と実践力の育成に努める。			

目標

【目標】

運動する機会を増やしたり、充実させたりすることによって、生徒の運動意欲、体力・運動能力の向上に努める。

【前年度からの改善方法】

・生徒の体力・運動能力低下の状況を踏まえ、各学校の実態を明らかにして課題を焦点化し、発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするとともに、体育的な行事の充実を図る。
・中学校運動部活動において、外部人材を活用することで、より専門的な指導によって、生徒の運動能力と体力の向上を図る。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	実技調査のうち、全国平均を上回った項目数が目標値（前年度実績値）以上となる。	項目	目標	8	12		
			実績	12	7		
	（指標の説明）　全国体力・運動能力、運動習慣等調査/実技調査全8項目×男女＝16項目（中学2年生男子、中学2年生女子）が、全国平均を過半数上回る。						
2	運動部活動の外部人材配置数が目標値（前年度実績値）以上となる。	人	目標	3	4		
			実績	4	4		
	（指標の説明）　部活動指導員と部活動外部指導者の合計配置数。						

取組状況・成果

・学校教育推進の重点の1つに「課題に基づく健康・体力づくりの推進」を位置づけ、学校の実態を明らかにしながら取組を進めるよう、学校計画訪問等で学校へ指導や確認を行った。
・目標とした数の部活動指導員を配置し、生徒がより専門的な指導を受けられる環境づくりにつなげた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	実技調査のうち、全国平均を上回った項目数が目標値（前年度実績値）以上となる。		150	58		
2	運動部活動の外部人材配置数が目標値（前年度実績値）以上となる。		133	100		

課題・今後の対応

・令和7年度は、「課題に基づく計画的な体力づくりの推進」を学校教育推進の重点の1つとし、県教育委員会と連携しながら、体育の授業や体育的行事等の工夫することにより、生徒の運動機会の充実に努めたい。
・部活動指導員人材バンクのより一層の周知に努め、さらなる増員を目指すとともに、指導員の質的向上をめざし、研修の充実等、支援体制の確立をめざす。

評価

【特記事項】

個別事業評価
△

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	4-1	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	②	健康教育の充実		
事務事業名	健康教育推進事業			
事業の概要	健康の大切さを認識し、健康を保持増進するための日々の生活の仕方を理解するとともに、健康を害する状況に陥らないようにするための思考力・判断力の育成に努める。 また、人間の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力の育成に努める。			

目標

【目標】

健康な生活について理解するとともに、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力の育成に努める。

【前年度からの改善方法】

生徒の健康問題に引き続き留意しつつ、その課題の解決に向けて、各学校へ情報提供及び指導を行う。また、生徒が食習慣や栄養バランスの取れた食事の大切さに気が付けるよう、栄養教諭が中心となって指導にあたる。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	朝食を毎日食べている生徒（中3）の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	91.2	92.2		
			実績	92.2	92.1		
	（指標の説明）　令和6年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査／質問「朝食を毎日食べていますか」						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

食に関する全体指導計画をもとに、栄養教諭が中心となって食事の役割や栄養を考えた食について学んだり、食への関心を高めたりする指導を行った。その他の健康問題については、養護教諭や保健体育主事が中心となって、生徒への指導や家庭への啓発を行った。また、給食委員会や保健委員会等の生徒の活動を通して意識が高まるよう努めた。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	朝食を毎日食べている生徒（中3）の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。		101	100		
2						

課題・今後の対応

朝食の質問項目は、全国平均を上回ったが、前年度とは大きな変容はなかった。国の公表によると、朝食を食べる習慣は家庭環境が影響している可能性があることも指摘されていることから、今後はより一層、こども総本部と連携しながら生徒の基本的生活習慣に係る啓発に努めたい。また、今後は、健康教育に関するアンケート項目を指標にしながら、学校での健康に関する授業改善につなげていく。

評価

【特記事項】

個別事業評価
○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	4-1	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	③	いのちの教育の充実		
事務事業名	自他の命を大切にする子どもの育成事業			
事業の概要	生徒が生命の誕生や生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育む取組を全教科・全領域において実践する。			

目標

【目標】

専門機関と連携しながら、生徒が自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育むための教育の充実を図る。生徒が自主的・自発的にいじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに取り組む。

【前年度からの改善方法】

・自分や周りの人の命を大切に思うためには、自尊感情が育っていることが大切である。各学校での日々の取組や専門機関と連携したいのちの教育の更なる充実を図る。
・いじめのない安心・安全な楽しい学校づくりでは、市内各校が参集する小中サミットの開催方法や協議内容を工夫する。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「自分自身がまわりの友だちなどを差別せず、大切にしている」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	—	94.3		
			実績	94.3	96.7		
	（指標の説明）　独自調査						
2	「自分自身がまわりの友だちから差別されず、大切にされている」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	%	目標	93	90.8		
			実績	90.8	93.4		
	（指標の説明）　独自調査						

取組状況・成果

・外部講師から命の大切さや体の変化等について教わることで、命の尊さや大切さを学ぶことができた。
・小中サミットでは、生徒が、いじめのない「誰にとっても安心・安全」な学校づくりを目指して話合いを行った。その中で、自分たちの学校をよりよくするために大切にしたいことを共通理解したり、各校での取組を紹介したりすることで、自治の取組の充実につながった。
・自尊感情を育み、高める点については、日頃の仲間づくりや人権教育を通して、生徒が人を大切にしようとする気持ちが育まれてきている。

	指標名		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	「自分自身がまわりの友だちなどを差別せず、大切にしている」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。	達成度%	—	103		
2	「自分自身がまわりの友だちから差別されず、大切にされている」と回答した生徒の割合が目標値（前年度実績値）以上となる。		98	103		

課題・今後の対応

周りの友達を大切にしようとする生徒が増えている一方、人から大切にされていると感じていない生徒も一定数おり、この点については課題である。今後、この点について改善を図る必要がある。今後も日々の人権教育や仲間づくりを通して、より子どもたちの自尊感情を高めていきたい。

評価	個別事業評価
【特記事項】	○

様式2

令和6年度　事務の管理及び執行状況の点検・評価票（個別事業）

基本施策	4-1	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	所管課	学校教育課
主な取組	④	防災・安全教育の充実		
事務事業名	防災・安全教育実施推進事業			
事業の概要	児童生徒が危険から身を守るために、それぞれの要因の理解、予測する力の育成、状況に応じた適切な対策をとるなどの実践力の育成に努める。また、災害への備えや、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動することなど、防災教育を通して災害から身を守る態度や実践力の育成に努める。			

目標

【目標】

安全及び防犯関連の学習において、専門機関と連携をしながら生徒への指導の充実を図る。具体的な場面を想定した防災教育を通して、生徒が災害から身を守る態度や実践力を育む。

【前年度からの改善方法】

コロナ禍で様々な制約があってできなかった安全教育の実施方法を見直し、より具体的な場面を想定した防災安全教育の充実を図る。
・専門機関等と連携した安全・防犯教室等の実施。
・地域等と連携した避難訓練等の実施。

【数値目標】

	指標名	単位	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	専門機関等と連携した安全・防犯教室を年1回以上実施する。	校	目標	—	1		
			実績	1	1		
	（指標の説明）						
2			目標				
			実績				
	（指標の説明）						

取組状況・成果

専門機関から情報モラルや地域での安全に関する話を直接聞くことで、多面的な物事の捉え方を生徒に示すことができた。地域等と連携した避難訓練等は実施することができなかったが、PTA等と連携して登下校の安全活動を実施した。

	指標名	達成度%	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	専門機関等と連携した安全・防犯教室を年1回以上実施する。		—	100		
2						

課題・今後の対応

学校における防災・安全教育がより一層充実するよう、研修会を実施したり、他の学校の取組について情報提供したりする。

評価

【特記事項】

個別事業評価
○

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
1　心を育む学びのあるまち 心の豊かさを持つとともに生きがいがあふれる豊かな人生を送ることができるよう、人と人との関わり合いの中で、互いに認め合いながら心の交流を図ることのできる学びの機会の提供に努めます。	○互いの違いを認め合いながら、自他の命の大切さを意識し他人を思いやる心と態度が備わっています。 ○自ら率先してあいさつを交わし、社会のきまりやモラルが守れるまちづくりを目指しています。 あいさつ、感謝など自分の気持ちの表現ができるとともに、課題解決のための行動がとれます。	1-1　豊かな心と創造性をもった子どもの育成 学校教育課	①心の教育の充実 ②人権教育の充実 ③生徒指導の充実 ④ふるさと・キャリア教育の充実
		1-2　安全で安心な学校施設の改善 こども施設課	①学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化 ②学校施設整備（改修）事業
		1-3　環境に配慮した学校教育環境整備の推進 こども施設課	①学校施設維持管理事業 ②学校施設のバリアフリー化事業
		1-4　学校ICT環境の整備 こども施設課 学校教育課	①ICT機器整備事業
		1-5　通学路の安全確保 こども支援課	①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実
		1-6　学校図書館の充実 こども施設課 学校教育課	①学校図書館運営事業
2　学ぶ楽しさのあるまち 学んだことをいかしながら創造力と実践力が育まれるよう、どの世代においても様々な体験を通して発見や豊かな学びが獲得できる場の提供に努めます。	○学ぶ楽しさを知り、自ら進んで学ぼうとする姿勢があります。 ○生涯を通して学ぶ楽しさを身につけ、学んだことを生活や行動、まちづくりにいかします。	2-1　確かな学力を身につけた子どもの育成 学校教育課 こども政策課 こども支援課 こども相談課	①学力の向上を図る学びの充実 ②特別支援教育・インクルーシブ教育の推進 ③切れ目ない支援体制の推進 ④外国語・英語教育の充実 ⑤情報教育とICT活用による授業の充実
		2-2　子ども地域活動の支援 地域振興課	①子ども地域活動の支援
		2-3　子ども読書活動の推進 生涯学習課 市立図書館	①乳幼児期から本に親しむ機会の創出 ②子ども読書活動推進事業の実施
		2-4　公民館運営の充実 地域振興課	①広報活動 ②社会教育講座 ③体育・文化事業 ④ひとづくり・まちづくり推進事業
		2-5　公民館の整備 地域振興課	①公民館施設等整備事業 ②明道公民館整備事業
		2-6　生活に役立つ図書の充実 生涯学習課 市立図書館	①生活充実図書整備事業

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
3　郷土で育む学びのあるまち 米子の財産である豊かな自然や歴史・文化遺産を保護・保存・継承・活用していくとともに、その魅力と価値を発信しながら、市民が郷土に誇りを持てる学びの創造に努めます。	○米子の地理や歴史を学びながら、米子の自然や伝統・文化を理解しています。 ○郷土である米子を愛し、誇りを持ってまちづくりを進めています。	3-1　学校給食における地産地消の推進 学校給食課 3-2　生涯学習活動の推進 生涯学習課 3-3　歴史的文化遺産の保存と活用 文化振興課 3-4　学びあう地域づくりの支援 学校教育課 こども政策課 生涯学習課	①学校給食用食材の県産品利用の推進と充実 ②生産者と児童生徒の交流の実施 ③児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施 ④郷土料理等の積極的な導入と継承 ①米子人生大学の開催 ②よなごアカデミーの開催 ③二十歳を祝う会の開催 ①文化財保存活用地域計画の策定 ②文化財の保存整備の推進 ③文化財の活用の展開 ①地域とともにある学校づくり ②地域学校協働活動の推進 ③地域学校協働活動推進員の配置
4　健康で安心して学べるまち 生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、健康に関する情報発信や啓発を行いながら、誰もが目的や年齢等に応じたスポーツに親しむことができる場の提供と全ての施設で安心して学べる環境整備に努めます。	○食生活の大切さを理解して健康的な体づくりを目指しています。 ○規則正しい生活と適切な食生活を送り、健康な体づくりに努めています。	4-1　健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成 学校教育課 4-2　学校における食育の推進 学校給食課	①体力・運動能力の向上を図る取組の充実 ②健康教育の充実 ③いのちの教育の充実 ④防災・安全教育の充実 ①各教科等における食に関する指導の実施 ②給食の時間における食に関する指導の実施 ③食育に関する保護者への啓発と広報